



## 八村塁さん

(バスケットボール)

NCAA レポート

アメリカ・ゴンザガ大2年



2018年3月～4月

### **ゴンザガ大 2017-18 シーズン最終成績**

通算成績：32勝5敗

ウェストコースト・カンファレンス：

レギュラーシーズン優勝&トーナメント優勝

NCAA トーナメント：3回戦進出（スイート16＝全米16強）

### **八村塁 2017-18 シーズン最終成績**

全37試合（うち2試合で先発） 1試合平均20.7分出場

平均11.6得点 4.7リバウンド 0.6アシスト

フィールドゴール成功率 56.8%

3P成功率 19.2%

フリースロー成功率 79.5%

## ■NCAA トーナメントに向けて～シーズン通算 30 勝チームの誇り

全米準優勝したチームから主力選手が 4 人抜けたことで、シーズン通して「昨季より戦力が落ちている」と言われてきた今季のチームだったが、それでも、NCAA トーナメント前までに 30 勝を達成。これはゴンザガ大史上でも 4 度目の快挙だ。



チーム内では、NCAA トーナメントが近づくにつれて、「このチームはファイナル 4

に出られるだけの力を持ったチーム」と言い合い、自信と誇りをもって、トーナメントに挑んだ。

NCAA トーナメントは全米のディビジョン I の大学から 68 チームが参加。全体を 4 つの地区に分け、各地区を勝ち上がったチームがファイナル 4 に進出できる。今年のゴンザガ大は西地区の第 4 シードが割り当てられた。

八村塁さん

「今年はやらない（1 年前ほどの結果は出せない）みたいに言われているんですけど、その中で今年も 30 勝をあげることができた。ゴンザガとしても 30



勝をあげたチームは少なく、その中に僕らが入っているので、みんなで、『それは誇り持とうぜ』みたいな感じで言い合っています。そういうのはモチベーションになります。チームもいい感じで、NCAA トーナメントが近づくにつれて、（チーム内で）『ファイナル 4 に出られるチームになってきているぞ』という話をしています」

■3月15日 NCAAトーナメント1回戦 対ノースカロライナ大グリーンズボロ校

会場：タコベル・アリーナ（アイダホ州ボイシ）

試合結果：ゴンザガ大 68ーノースカロライナ大グリーンズボロ 64

八村：19分出場 4得点・5リバウンド



1回戦の対戦相手は西地区13シードのノースカロライナ大グリーンズボロ校。マイケル・ジョーダンで有名な強豪ノースカロライナ大とは別大学だが、それでも、所属カンファレンスを勝ち抜いてきたチームだけに、簡単に勝たせてはくれず、終始接戦。

いつものように控えメンバーとして出場した八村さんは、シュートが決まらずに苦戦。リバウンドなどのハッスルプレーで貢献した一方で、ファウルトラブルにも苦しんだ。

チームは68対64で逃げ切って2回戦進出を決めたが、試合後の八村さんは「チームの足を引っ張ってしまった。迷惑をかけてしまった」と反省。それでも、試合に勝ったことに安堵しつつ、「きょう迷惑をかけた分、次の試合はもっと頑張りたい」と意気込みを語った。



### ■元 NBA 選手、クリス・ウェバーから取材を受ける

ゴンザガ大コーチ陣からも、チームの勝敗の鍵を握る選手として期待されるようになった八村さんは、アメリカのメディアからも注目度アップ。トーナメントの間、英語で取材を受けることも多かった。

NCAA トーナメント前には、トーナメント 1 回戦と 2 回戦でゴンザガ大の試合を担当した TNT の解説者で元 NBA オールスター選手のクリス・ウェバーからも取材を受けた。



八村さん

「(ウェバーは) 普通にいい人でした。すごい明るい人。(話したのは) 取材のこと。試合終わったあとの取材とか受けてくれよとか (言われました)。話せてよかったです」

■3月17日：NCAA トーナメント2回戦 対オハイオステイト大

会場：タコベル・アリーナ（アイダホ州ボイシ）

試合結果：ゴンザガ大 90ーオハイオステイト大 84

八村：25分出場 25得点・5リバウンド・4ブロック

ゴンザガ対オハイオステイトでの八村さんハイライト動画

<https://youtu.be/JJ2RMjxU4M0>

2回戦の対戦相手は西地区5シードのオハイオステイト大。前の試合の分も取り返そうと、八村さんは試合に出るとすぐに、攻守にアグレッシブなプレーを連続で見せ、ゴール下で相手のファウルを誘ったかと思うと、相手のシュートをブロックし、さらにシュートを沈めるなど、頼もしいプレーを連続。接戦の終盤でも3Pシュートも決めるなど大活躍でチームを勝利に牽引、スイート16（全米16強）進出を決めた。この試合で八村さんがあげた25得点と4ブロックは、それぞれ自己最多だった。



八村さん

「前の試合でチームに迷惑をかけたので、今日は頑張ろうと思って、その中でディフェンスでもオフェンスでもチームを助けることが出来て、チームの流れを変えることができたんじゃないかなと思います」



「シニア（4年生）の人たちはこれで4年連続スイート16らしくて、それはすごいこと。そのなか（それを達成することができたチーム）の一員となれて、すごく嬉しいです」

「（スイート16進出は）正直言って今は全然実感していないんです」

けれど、チームで喜んで、次に向けて頑張るだけ。ひとつひとつ、やっていきたいなと思っています」

「こういうところ（苦しい試合）で勝っていくことが大事だと思う。この2試合（に勝ったこと）でチームとして自信になっていると思います」

マーク・フュー（ゴンザガ大ヘッドコーチ）

「ルイはディフェンスでの重要なプレーでブロックを見せたし、オフェンスでも大きな3ポイントも決めた。あれはビッグプレーだった」

「試合の序盤にはファウルやフリースローなどうまくいっていなかったけれど、立ちなおしてきた。それで落ち込むのでも、すねるのでもなく、ステップアップして大きなプレーを決めた。彼がいなかったら、きょうの試合は勝てなかった。彼を誇りに思う」



### ■ ステープルズセンターではレイカーズのロッカールームを使用

3回戦からは、会場をロサンゼルスに移して、ふだん、NBAのレイカーズとクリッパーズが本拠地としているステープルズセンターが試合会場となった。西地区でスイート16に残った4チームが集まった中、ゴンザガ大は、ふだん、レイカーズが使用しているロッカールームが割り当てられた。

レイカーズのロッカールームだと聞かされた八村さんは、「ここが？ なんか、僕たちの（スポケーンでの）ロッカールームのほうがいいような感じ」との感想。ゴンザガ大の環境が恵まれていることを、あらためて実感していた。



■3月22日 NCAAトーナメント3回戦（地区準決勝） 対フロリダステイト大

会場：ステープルズセンター（カリフォルニア州ロサンゼルス）

試合結果：ゴンザガ大 60-フロリダステイト大 75

八村：36分出場 16得点・9リバウンド・2ブロック



3回戦の前に緊急事態が発生。スターターの一人、キリエン・ティリーが、故障のために試合に出られなくなったのだ。急遽、いつもは控えから出ていた八村さんが、スターターに抜擢された。

八村さんはチーム最多の16点をあげたほか、9リバウンドと奮闘したが、この日の対戦相手、フロリダステイト

大は9シードと、シード順では下だが、身体能力が高いビッグマンが揃ったチーム。戦力を欠く状態で戦うのは厳しかった。それでも、リードを取られ、引き離されては追い上げて粘ったが、60対75で敗れ、八村さんにとって、大学2年目のシーズンが終わった。

八村さん

「(スターター出場を言い渡されたのは) 試合直前でした。いつも通りにプレーできたと思うんですけど、チームとして少し踏ん張り切れないところがあった。相手の高さとかを気にしすぎていた」

「(試合を通して) ずっとリズムに乗り切れなかった。相手は何回かリズムを崩しても(リズムを取り戻して) やっていたけれど、僕たちはそれが1回もなかった」

「(今シーズンを振り返って) 自分の身体能力を生かすように、ドライブやポストプレーを磨いてきた。そういうところは出せたんじゃないかなと思います」



## ■NBA アーリーエントリーは見送り、来季もゴンザガで学ぶ判断

NCAA トーナメントの、特にオハイオステイト大戦での活躍で評価が上がった八村さんは、シーズン終了後に、今年、NBA ドラフトにアーリーエントリー（※）するか、来シーズンも大学に残るかを検討していたが、4月8日に、大学を通じて、秋からの次のシーズンも大学に残ると正式発表した。

※アーリーエントリー：大学で4年間過ごす前に、NBA ドラフト対象リストに名前を載せるように申請すること

八村さんコメント（大学プレスリリース掲載コメント）

「来シーズンもゴンザガ大に戻る（残る）ことにワクワクしています。これまでコーチたちから学んだすべてのことに感謝するとともに、さらに学び、自分のバスケットボールを成長させることを楽しみにしています。Zag Nation（ゴンザガ大ファン）の前で、チームメイトたちともう1シーズン過ごすことができることにもワクワクしています」



その後、4月14日に大学があるスポケーンの地元紙、スポーツマン紙に掲載された記事によると、八村さんはこの決断を下すにあたって、眠れないほど悩んだという。記事中で、八村さんは次のようにコメントしている。

八村さん

「人生を左右するような決断だった。『今夜、何を食べに行こうか？』と悩むのとは違う。多くの人から、色々な意見を聞いて、最後は自分で、ここに残りたいと決めた。何よりも、ゴンザガ大、コーチ陣、このプログラムを信頼している。スキルやメンタリティなど、すべて成長させることができると思った」

文・写真：宮地陽子